

海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	アメリカ ワシントン州 シアトル
研修先	兵庫県ワシントン州事務所
プログラム実習期間	平成 28 年 8 月 22 日～平成 28 年 9 月 9 日
学部/研究科・学年	工学部 3 年

インターンシップ就業実習 報告書

今回のインターンシップでは9月3日、4日に開かれたジャパンフェアの準備が主な業務となりました。現地に行く前から、インターン派遣生二人で主な企画の案は考え具体的な部分と準備を現地のオフィスで行う形になりました。オフィスでは現地のインターンの方も加え、3人での準備となりました。企画と準備はほとんどのところで自由にやらせていただき、報告をしてアドバイスを頂きながら修正していくといった具合で進みました。話し合いは基本的に英語で行い、たまに日本語も使うといったように進みました。英語での話し合い中にはなかなか自分の意見を言うことが難しく、どのような表現を使えば正しく伝わるかなどを考えているとなかなか口に出すことができませんでした。このインターンで少しでも自分の意見を言えるようになろうと最初の頃に思いました。

ジャパンフェアの準備として、パネルの作成、兵庫県を読み札に絡めた英語カルタの作成、チラシとアンケートの作成を主に行いました。パネルでは、篠山市と兵庫の地元料理といったものをメインにおいて作成しました。篠山市を選んだのには、知名度はあまり高くないが日本らしい町並みや文化を体験できる場所ということでぜひ紹介したいという考えでパネルの主題に選びました。料理では、明石焼きとそば飯、ぼたん鍋を選びそれぞれの歴史やレシピを紹介しました。企画段階では食べ物を紹介するならやはり味わってもらいたいという考えもあったのですが、準備期間も短く許可等の問題も考えられたため断念しました。しかし、アンケートや来てくださった人たちの話から試食ができると嬉しかったという意見が多くあったため、用意できたら良かったと少し心残りになりました。英語カルタの作成は、かなり苦勞することが予想されていましたが、現地のインターンの方の助力もありスムーズに作成できました。しかし、日本とアメリカでの文化の違い、取り上げたものの認知度など、考えなければいけないことは多くありました。アンケートについては、来年にどんな内容のブースを開いてほしいかを調べるために来てくださった人たちに回答していただきました。

イベント当日にはたくさんの方たちが来場していただき、多くの人に自分たちの企画を紹介できたと思います。英語での紹介は難しく、表現の幅の小ささを実感させられました。また、予想外な質問等もあり日本についての勉強不足という点も否めませんでした。しかし、次に日本に行くときは行ってみると言ってくれた方たちや、ブースに置いていたカルタやけん玉で楽しそうに遊んでくれた方たちには、日本と兵庫の良さを少しでも分かってもらえたと思います。また、兵庫県のマスコットのハバタンの着ぐるみを着て会場内でPRを行いました。子どもたちにはとても人気で少しでも興味を持って

らうきっかけとして良かったと思います。

シアトルに派遣されてきた中学生、大学生たちへのプレゼンテーションにも参加しました。その中で、私がインターンに参加した理由などについて話す機会をいただきました。突然だったため少し戸惑った点もありましたが、自分の目標や将来のことなど改めて自分の中で考えることができたので、良い機会だったと思います。また、ワシントン大学に留学しに来ていた大学院生の方と話す機会もありました。とても志しの高い方で、自分の大学での取り組みや将来についてとても深い考えを持っていて、私も多大な刺激を受けました。

ジャパンフェアの終了後には、所長の紹介でワシントン大学とボーイングの組み立て工場に見学に行くことができました。特にボーイングの工場では JAL のスタッフの方に案内していただき、通常では立ち入ることのできないような場所を見学させていただいたり、航空機の作成や航空会社についてなど、とても貴重な話をしていただけました。ものづくりに関わる時にとても大事な考えを学ぶことができました。ワシントン大学では、日本の文化について研究している教授と話す機会をいただきました。とくに日本での進路の決定などについて話し、私自身の進路についても考え直す機会となりました。

最後の二日間では、シアトルとワシントン州の経済状況についての資料の作成を行いました。用語などが難しいこともあり、英語でデータを集める際には苦労しました。アメリカでは日本のように各自治体がデータをまとめて公表したりなどはしていないようで、集まるデータも統一性がないものが多く、作成した資料も納得のいくような内容にはなりません。データを集めたりまとめたりという良い勉強にはなりましたが、悔いの残る部分が残ってしまいました。

感想および意見

まず、シアトルという街に滞在できたことが良い経験になったと思います。文化の違いというところがありきたりな表現ですが、アメリカと日本について多くのことを感じました。経済状況の資料をまとめた際に、日本とアメリカについて比較する事がありました。特に、家賃の増加や収入格差などは日本よりもかなり顕著で、住むことを考えると非常に大きな問題だと思います。街にはたくさんのホームレスの方がいますが、そういった問題への対処も日本とアメリカではかなり違うように思いました。日本にいただけでは見ることが難しいアメリカの要素も学ぶことができたと思います。

今回のインターンシップでは、業務の殆どを自由にやらせていただき、とてもありがたく思います。ただ、だからこそ思慮が浅い部分が多くあったように感じます。企画の段階では、篠山市のデカンショ踊りというものを実際に来場者の方を巻き込んで行おうという案があったのですが、会場のスペースなどの関係で実施することができませんでした。その他にも、制約の関係で断念した案がいくつかありました。それも、現地に行ってからあきらめることも多く、事前にもっと調べておけば他の案も考えられたのではと思うことが多くあります。当日になってブースの配置を変更したり予想よりも企画の実施が難しかったりと対応に追われることもありました。企画を考えるときには、制約が必ずついて回ると思います。そういったときに、十分な下調べとシミュレーションが大事になってくることを強く感じました。

また、英語での生活という部分ではまだまだ勉強しなければいけないことが多くあることを感じました。いまだに、現地の方と話すときには早すぎて聞き取れないことも時々あり、勘違いすることもありました。ホームステイの家族とも、一度自分が勘違いして迷惑をかけてしまったことがありました。英語を使って企画などを話し合う際にも、自分の意見をなぜか言い出せないことがあり、もっと発言することが必要不可欠であったと感じました。その部分については英語や日本語ということ以前の問題でもあるため、意識的に変えていけたらと思います。

多くの人達との出会いのあったインターンでもありました。事務所のスタッフの方は皆良い人ばかりで、とても働きやすい環境でした。英語のことについてもそうですが、多くのことで助けていただきました。ホームステイの家族、ジャパンフェアに来ていただいた方たちや現地で出会った人たちそれぞれに多くのことを学ばせていただきました。ワシントン大学を紹介していただいたライブラリアンの方や対談した教授、ボーイング工場を紹介していただいた JAL のスタッフの方にも、貴重な話をたくさんしていただきました。この夏でとてもたくさんのことを考えることができました。

テストなどではなく、人と実際に話さないと学べないことを多く経験できたと思います。この経験は必ず私自身の将来に役立つ経験になると思います。



